

水道事業基本計画(水道事業ビジョン)に掲げる指標の進捗状況

[進捗評価] a. 取組みによる効果が表れている
 b. 取組みによる効果が表れているが不十分
 c. 取組みは順調であり今後効果が表れる見込み
 d. 取組みによる効果が表れておらず、改善が必要
 e. 取組みに未着手

目標指標名	単位	望ましい方向	基準値 (H25実績)	R2年度	R3年度	目標値 (R6年度)	進捗評価	評価内容と今後の取組み	
① 安全	水質基準適合率	%	↑	100	100	100	100	a	・水道水は水質基準全ての項目(51項目)について適合している。今後も自己検査体制を強化し、検査精度の向上に努める。
	平均残留塩素濃度	mg/L	⇄	0.32	0.27	0.32	0.1~0.4	a	・今後とも、安全安心な水道水をお客様にお届けするため、きめ細かな残留塩素濃度の管理を行う。
	連続自動水質監視装置設置数	台	↑	13	15	15	15	a	・令和元年度に設置完了し、目標を達成した。
② 強靱	管路の耐震化率	%	↑	10.9	17.0	18.4	22.0	b	・耐震性が低く漏水発生の可能性の高い管種(普通鑄鉄管(CIP)・亜鉛メッキ鋼管(GP)・硬質塩化ビニール管(VP))を更新するとともに、配水システムにおいて過去の漏水箇所を可視化することで、漏水の多い箇所の管路の更新を優先的に行う。 ・下水道工事や道路工事等の他事業との工程調整を密にして他工事との同時施工を推進し、効率的な管路更新率の向上を図る。
	基幹管路の耐震適合率	%	↑	—	69.9	70.0	—	a	・令和3年度着工の古国府浄水場～森岡山配水池送水管布設工事(L=538m)については、令和5年度に供用開始する予定。 ・基幹管路については、令和3年度までに耐震適合率が100%になるよう「基幹管路耐震化計画」を今後策定する。
	配水池の耐震化率	%	↑	63.6	76.4	77.8	69.0	a	・平成29年度に上野配水池を更新し目標値を達成した。 ・令和3年度は、耐震診断の結果、耐震性を有すると判明した配水池があったことで、耐震化率が向上した。
	可搬ポリタンク・ポリバック保有度	個/1,000人	↑	30.8	68.6	67.0	54.0	a	・令和元年度以降、目標値以上の保有度を維持している。 ・令和3年度末時点で、可搬ポリタンク91個、ポリバック(給水袋)31,676枚を保有している。
	給水拠点の整備箇所数	箇所	↑	0	125	125	55	a	・平成30年度に市内小中学校23校の受水槽の改修を行い、125か所の指定避難所を応急給水拠点として指定した。
③ 持続	給水普及率	%	↑	98.18	99.83	99.84	99.90	a	・ほぼ市内全域に普及している。 ・未給水地区に点在する小規模集落で、現在どのように飲み水や生活用水が確保されているかを調査している。住民の声をききながら、地域の特性に応じた将来の水供給のあり方を今後検討するとともに、「大分市下水道未整備対策支援事業」により生活用水の供給支援を行っている。
	有効率	%	↑	92.17	92.24	91.27	95.00	b	・有効率の低下要因となっている漏水を抑えるため、引き続き漏水発生の可能性が高い管種(普通鑄鉄管等)の更新に取り組む。
	配水施設の廃止数	件	↑	—	9	9	10	a	・令和6年度までに上白木減圧水槽を廃止して、目標を達成する見込み。
	自己資本構成比率	%	↑	68.0	78.7	79.4	76.6	a	・毎年度の純利益計上に伴い資本金及び剰余金が増加し、自己資本構成比率は上昇している。今後も財政状態の安定・向上に努める。
	給水収益に対する企業債利息及び償還元金の割合	%	↓	47.26	26.01	27.22	28.00	a	・企業債の未償還残高の減少に伴い企業債利息及び償還元金も減少し、目標を達成した。ただし、今後は進捗が遅れている「管路の更新及び耐震化」の取組を強化するため一時的に建設改良費が増大し、それに伴い企業債利息及び償還元金も増加する見込み。
	料金収納率※	%	↑	99.45	99.88	99.89	99.70	a	・債務者に対して文書や電話等きめ細かく対応し、継続した収納率の向上に努めている。
	給水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	↓	0.56	0.57	0.57	0.54	b	・最も高い施設能力を有する古国府浄水場における受電設備の高効率機器への更新工事が令和4年度に完了する予定。

※「料金収納率」の対象は過年度分(令和3年度の数値は令和元年度の水道料金が対象)